

実践事例

- 1 世田谷区立山野小学校
- 2 練馬区立豊溪小学校
- 3 立川市立けやき台小学校
- 4 多摩市立多摩第一小学校

推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



1 世田谷区立山野小学校

【実践の概要】

主に第5・6学年の飼育委員会児童が、昨年度から継続してウサギの飼育について学校担当獣医師より指導を受けてきた。特に、えさの内容や与え方、体重の変化の記録方法、温度・湿度の管理等について、受けた指導を生かしながら注意して飼育を進めた。

今年度は、学校担当獣医師の助言を受けて飼育日誌を改善した。そして、日誌に書かれた記録を基に学校担当獣医師から更に助言を受け、日々の飼育活動の充実に生かしている。

また、本校は次年度から校舎改築により仮設校舎への移転となるため、新たな環境でのウサギの飼育について、ウサギ小屋の位置をはじめ、遊ばせ方のポイント等の留意点について学校担当獣医師に詳しく助言してもらった。



学校担当獣医師に指導を受けている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

飼育委員会の児童や担当教員等への衛生管理に係る指導の打合せを年2回、委員会活動時における児童や担当教員等への学校担当獣医師による直接の指導を年2回実施した。

打合せには、学校担当獣医師と管理職、担当教員が出席し、今年度の重点や委員会当日の指導内容、流れ等について具体的に確認した。このことにより、ウサギの飼育等について、学校担当獣医師との日常的な連携が図れるようになった。

【児童の反応】

- ウサギの様子について、日々の体重の変化や便の様子等、指導を受けたことをしっかりと意識して観察するなど、主体的に活動できるようになった。飼育日誌の内容も詳細に記録されるようになった。
- 初めて知る内容も多く、興味深く、熱心に学校担当獣医師の指導に聞き入っていた。飼育委員会の常時活動の質の向上につながった。また、次年度からの校舎改築に伴う飼育の留意点を教えてもらい、不安が解消されるとともに、新たな意欲につながった。





2 練馬区立豊溪小学校

【実践の概要】

7月に実施した衛生管理に係る指導では、主に飼育方法について学校担当獣医師から説明を受けた。その中で衛生面において、以下の4点のポイントが伝えられた。

- ① 1日1回、ケージの掃除を行うこと
- ② 掃除をする際には、糞や尿がケージ内にこびりついているため、丁寧にふき取ること
- ③ 餌は余っていても、毎日、新しい物を与えること
- ④ 動物も人間もお互いに病気をうつさないために必ず手洗いをする



ウエットティッシュでケージについた汚れを拭き取っている様子

4点のポイントを伝えられ、児童が主体となって飼育に当たった。また、その後の学習においても、毎回、ケージ内の様子を学校担当獣医師に見てもらい、その都度、助言をもらった。

12月に実施した衛生管理に係る指導では、本格的に冬を迎えるにあたり、温度設定や餌の量等について助言を受けた。特に、この時期は、手洗いを必ずするように伝えられた。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

週末は、保護者が交代でモルモットの世話を当たった。その際に、学校担当獣医師から伝えられた清掃方法を保護者にも分かるようプリントを作成し配布した。また、清掃方法を拡大したプリントを壁に貼り、保護者の共通理解を図り、世話を当たってもらった。

【児童の反応】

- モルモットの飼育を始めた当初は、糞や尿が汚いという意識があり、触れることができない児童が多く見られた。しかし、数か月がたち、夏休み後からはどの児童も進んで清掃に当たるようになった。清掃後、モルモットが気持ちよく過ごしている様子を見て、児童たちの意識も変わり、さらに愛着が湧いてきた。





3 立川市立けやき台小学校

【実践の概要】

年度当初の委員会時に学校担当獣医師から衛生管理に係る指導を受けた。

ウサギの飼い方や抱き方、えさや水の量についての指導を受けるとともに、水の皿を毎日洗うことの大切さや、掃除の仕方についても丁寧に教わった。また、ウサギの様子をよく観察することで、大きな病気を未然に防ぐことができることが分かった。

これらの衛生管理に係る指導により、児童は、普段の当番活動の中で気になったことがあると、すぐに担当教員に報告するようになった。

そして、ファクシミリ等を通じて迅速に学校担当獣医師と連携を取ることができるようになった。



ウサギの特徴について説明を聞いている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師とは、常に連携を取ることができるようファクシミリでやりとりを行った。具体的な助言がほしい際には、電話で学校担当獣医師と話をした。

推進校を受ける以前は、年に一度、学期初めの打合せのみであったが、この推進校への取組を通して、学校担当獣医師が頻繁に来校してもらえるようになり、その都度具体的な指導を受けることができた。

【児童の反応】

- 衛生管理に係る指導後、水飲み容器をきれいに洗ったり、掃除も丁寧に行うようになったりした。
- ウサギの様子で気になることがあると積極的に担当教員に伝えに来るようになった。そして、「あごの所が膨らんでいるので学校担当獣医師の先生に伝えてほしい。」等、ウサギの細かい変化について、気が付くようになった。観察の視点を学校担当獣医師から指導していただくことで、児童の関心も高まった。





4 多摩市立多摩第一小学校

【実践の概要】

衛生管理に係る学習では、学校担当獣医師が児童に映像を見せながら、ヤギの習性やヤギへの接し方、衛生的な飼育方法、児童が世話をする際の注意点等について話した。

学習の後半は、校内の「ふれあい広場（ヤギ広場）」で教えてもらったことを一つ一つ確認しながら、実際にヤギに触れたり世話をしたりした。



ヤギの体のつくりや習性について指導を受けている様子

【学校担当獣医師との連携】

学校担当獣医師と管理職、担任等で事前に打合せを行い、衛生管理に係る学習当日の内容や流れについて確認した。

【児童の反応】

- 飼育しているヤギの種類について知り、他の種類のヤギにも興味を示していた。
- 世話の仕方やえさの与え方を学んでからは、日常の当番活動で実践する児童が増え、えさを与える下級生に学校担当獣医師から学んだことを教える姿も見られた。
- 学校担当獣医師の話を通して、動物が生活する環境がいかに大切であるかが分かり「ヤギのために住みよい環境をつくりたい。」と、小屋や広場を熱心に掃除する児童が増えた。
- ただ世話をするだけでなく、ヤギの鳴き声や動き等を観察して、健康状態を把握するようになった。ヤギの様子を見ていて心配なことがあると、すぐに飼育委員会担当教員に報告するようになった。

